

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1971100126		
法人名	芳寿会		
事業所名	グループホーム回生荘		
所在地	山梨県都留市境36		
自己評価作成日	平成21年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
訪問調査日	12月17日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

認知症の人が笑顔でもてる力を発揮して生活機能を向上させることを目的とした、脳活性化リハビリ・①快刺激が笑顔を・②ほめることが意欲を・③コミュニケーションが安心を・④役割を演じることが生きがいを・・・この4つを原則として、スタッフ一同取り組んでいます。※ケアは一人一人の声に耳を傾けることから始まる。※ケアはお芝居の要領で、一人一人の対話を大切に・等に取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

特別養護老人ホームの建物に併設され、グループホームの玄関が特養の玄関の真裏にあるため、地域住民など外部の人には事業所の場所が不案内だったが、今年度から案内看板が設置された。看板設置を手始めとして、地域住民に利用者や事業所への理解や関わりを持ってもらうため、「回生荘たより」を創刊し、それを自治会の回覧板に入れて利用者と職員と一緒に隣の家へ回しに行くなど、新しい取り組みを積極的に行っている。また、近隣の畑で採れた作物をいただいたり、日常生活品や食材を地元商店優先で利用し、配達してもらうことにより、地域住民となじみの関係の継続に配慮した運営が行われている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	果 ↓該当するものに○印	項目	果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果	
				項目	果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての利用者 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・利用者やご家族の皆さん及び職員が、見易いところに大きく手作りの理念を掲示して、いつでも眼に入るようにしています。 ・ミーティングなどで、理念に基づくサービスの提供について話し合っています。	すべての職員が常に意識づげができるよう大きな文字で、壁張りにして、ケアに生かしているが、法人の基本理念を事業所用に分かり易く作り直したもので、地域密着型サービスの意義を踏まえた見直しは行われていない。	管理者や職員に異動があったことや事業所に求められるニーズの変化を踏まえ、すべての職員により、地域との関係性など、地域密着型サービス事業所としての理念の見直しを行うことを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会、老人会などの行事に参加するところまで至っていませんが、納涼祭に自治会の役員・民生委員・近隣の皆様に参加して頂き交流を深めています。 ・回覧板を利用者と隣の家に届けに行っています。	認知症や利用者についての理解を図るため、事業所だよりを地域の回覧に加えてもらい、認知症の説明や利用者の様子、事業所の取り組みについて情報発信している。また、地域の共同作業などへ参加できるよう、自治会や老人会に声かけの依頼をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症についての理解や支援等の情報・毎月の行事予定・介護についての相談などの情報を乗せて、毎月回生荘たよりを発行、回覧板にて各自治会に回覧して頂いています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議では、現在の運営状況や外部評価の結果の報告等をして、委員の意見や要望等を汲み取り、サービス向上に活かしています。 ・会議を構成するメンバー・管理者の異動などがあり委員の構成、日程調整の関係もあって、今、現在は9月1回の開催となっている。今後調整をして、2か月に1回開催していきたい。	9月以降、12月に2回目を開催した。12月の会議では「地域とのかかわり」をテーマに、特別養護老人ホームなど他の介護施設とグループホームの違いを説明し、委員から意見や要望をいただき、いきいきサロンへの参加、ボランティアの協力要請などへ結びつけた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市主催の研修会や会議に積極的に参加している。また、市町村の担当者とは、運営推進会議以外でも、随時必要に応じて相談や連携体制をとり、協働関係を築くようにしている。	認定更新時など日頃から市担当者のところに出向き、利用者の様子を伝えたり、アドバイスをもらっている。入居待機者が多く、ユニットを増やしたい考えがあることから、地域の現状など情報交換を積極的に行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束について、「禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。 ・居室やテラスについては、日中鍵を掛けずにケアをしていますが、玄関については交通事故等も考慮し、現在は自由な出入りはできません。	居室、テラスから庭伝いに外へ自由に出入りできる。玄関(自動ドア)の施錠については、現実として施錠の必要もなく、身体拘束行為であることも認識している。以前、システムを解除して手動開放を試みたが、建物の構造上対応できない、玄関そのものを作り変えるしかないことが判明し、現状のままとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・外部研修に出席した職員を講師に施設内で勉強会を開催したり、ミーティングで話し合ったりして、職員の虐待に関する認識を深め虐待防止に努めています。 ・職員間でも気が付いたことを指摘し合うようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・青年後見人制度について、内部のケアマネ等や市町村の担当者に随時相談をして、必要に応じて活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約に際しては、契約書・重要事項説明書・運営規定等による説明は勿論、本人及び家族の皆さんに実際に施設を見学して板だ等十分納得して入所していただくようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族の面会時や家族会などでサービス内容についてのご意見を求めるなど、ご家族の意見や不満等を汲み上げるようにしています。 ・苦情・相談窓口として、第三者評価委員会や行政等窓口の連絡先を掲示しています。 ・利用者の言動などを観察して、不満等を察知して、声を掛けるようにしています。 ・利用者やご家族の方のご意見や不満等を気軽に表出できるように、意見箱を設置しています。	気軽に何でも言ってもらえるよう、意見箱や「家族おしゃべりノート」を設置している。また、家族会や行事に参加していただいたときなどに積極的に話しかけているが、運営やケアに関する要望などはほとんど出ない。	「家族からの意見や要望は仕事への励みになる」という職員の声もあることから、「家族おしゃべりノート」の更なる活用や家族アンケートの実施など、利用者や家族から意見や要望を引き出す工夫の検討が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎月、法人全体の運営会議やグループホーム職員によるミーティング等職員の意見を聞く機会を設けて、意見を聞き反映させています。	「報告・連絡・相談」を合言葉に、管理者は積極的に職員の意見に耳を傾け、ミーティングなどで解決を図っている。さらに、利用者の混乱を避け、職員間で共通したケアを行えるよう、職員連絡ノートを作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・課業について一覧表を作成して、それぞれの業務を把握すると共に、各自がどの位置にいるかを確認して、それぞれ目標を持つ手働くようにしています。それを人事考課で給与などに反映をしています。(正社員)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修、特に認知症に関する研修に参加して理解を深めると共に、悩みなどを話し易い環境を心がけています。 ・職員の能力・経験に応じた研修の参加を奨励している。研修後カンファレンスなどで職員全体が共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・外部研修の祭に他施設の職員と積極的に意見交換をするなどの交流をしています。 ・今後相互訪問などのネットワークはこれからの課題です。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の困っていること、不安なこと、求めていることな		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・本人の困っていること、不安なこと、求めていること等本人から聴いたり、言動を洞察して受止めて、穏やかに生活ができるように支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時に、本人やご家族が本当に必要なサービスを見極め、他のサービスも含め適切なサービスの検討もして支援をしていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・本人の生活歴や趣味などを日頃の会話の中で聞き取り、興味のあることについて話をし、共有できる部分を増やし、共に生活を送る雰囲気を作っていくようにしています。 ・利用者から感謝の言葉で励まされることも多く、また、人生の先輩として学ぶことも多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・年間の行事計画を年度当初にご家族に配布して、家族の皆さんが行事に参加しやすくすると共に、四季折々の行事をご家族と一緒に作りあげるようにしています。又面会時には日々の生活を振り返りお話をし、本人の状況を共有するようにしています。毎月回生荘便りを送付している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・居室に今まで使用していた家具などを配置し、出来るだけ馴染みの場所との関係が途切れないようにしています。	独居で孤立した生活をしてきた利用者については親戚や友人の掘り起こしをし、面会依頼の連絡などの働きかけを行った結果、訪問してくれるようになった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・普段の行動などを観察、利用者同士の関係を把握し孤立しないように、位置などを考慮し、皆で一緒に出来ることを取り入れて行きます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・サービスの利用が終了しても、本人に面会をしたり、ご家族に施設での状況をお伝えしたり、電話で様子を伺うなどをしていきます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・アセスメントする際や普段の様子から、本人の言動や非言語的表現(表情等)を通して、したいこと、不快に思う事などを情報収集している。本人の訴え(帰りたい、食べていない等)への対応はしているが、満足を得られていない場合がある。	本人の意向や思いを言葉にして表わすことが難しい利用者については、日常のケアで得られた反応などで把握している。また、家族などへの聞き取りで情報を得て、利用者の希望や思いをケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・どのような仕事をしてきたか、どこで暮らしていたか等主なことは把握しているが、細かい生活習週間や好み等までは把握しきれていない部分もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・何が出来て何が困難であるか本人と一緒に 行いながら、探し確認をしている。 ・出来るのにしようとしない方へは無理強 いせず、他の出来ることを探していただくよ うにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現 状に即した介護計画を作成している	・本人を含め担当者会議を開き、ご家族の 日頃のご意見などを取り入れ介護計画を作 成しています。 ・ケアカンファレンスにご本人・家族に参加 して頂き、現状の状況を詳細に説明して現 状に即した計画を作成しています。 ・研修により学習した課題やケアの在り方 などを参考に職員全体が共有し、各職員が 常に問題意識を持って介護に当たっている。 日々の気づきをもとにケアカンファレンス を行い、介護計画作成に反映している。 ・介護計画の期間に応じた見直し、状態 の変化に合わせた見直しを行っている。し かし新たな要望や変化が見られない場合の 毎月の見直しの取り組みまでは至っていな い。	利用者ごとに毎日のケアプランが立てられ、 職員全員で統一したサービスが提供されて いる。また、生活目標プラン、介護目標プ ランの2つの介護計画があり、ミーティ ングの中で定期的にモニタリングと見直し を行っている。介護計画作成時には、利 用者・家族を交えたサービス担当者会議 を開き、意見交換を行い、意向や思いを 把握してしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫 を個別記録に記入し、職員間で情報を共有 しながら実践や介護計画の見直しに活かし ている	・一日の様子を時間帯で区切り、一日一枚 の記録の書式としています。主に実践した 事項を記入しています。気づきやケアの工 夫については、連絡ノートに記載して情 報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、 柔軟な支援やサービスの多機能化に取り 組んでいる	・本人やご家族の状況や要望に心して、 総合福祉施設としての施設内の移動等 を含め柔軟なサービスの提供をしていま す。 ・通院の送迎は家族の状況や利用者の希 望にあわせ、柔軟かつ適切に対応されて いる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができ るよう支援している	・地域のも民生委員の方に評議委員や運 営推進委員としてご意見やご指導をして いただいています。 ・近隣の保育園との交流をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人ご家族の希望を大切に、基本的に雇いつけ医に通院したり、往診など適切な医療を受けられるように支援をしています。	家族の通院介助負担への配慮、本人や家族の希望により、協力病院の医師による往診で対応している。精神科へ通院が必要な場合は基本的には家族にお願いするが、家族の負担感が大きく、ほとんど職員が対応し、家族に報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・特養の看護職並びに雇いつけ医の看護師等とも気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・日頃、病院関係者との連携に勤めており、入院した時は利用者が安心してすごせるよう、また、早期に退院できるように情報交換や相談が出来るようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・往診医の活用及びかかりつけ医により、早めに状況等を把握して、本人やご家族と話し合い、全員で情報の共有に努めています。 ・利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所で「出来ること・出来ないこと」を職員間で協議して見極め、今後の変化に備えて検討や準備を行っています。	重度化や終末期への対応方針について、事業所では、まだ検討されていない。法人には看取り指針があるが、事業所として看護職員の増員も必要となるため、事業所単独では決定できないので、関係部署とも連携を図りながら検討する方向である。	重度化や終末期の対応について、事業所の制限など現状を把握したうえで職員間で話し合い、事業所としての方針を出されることを期待する。また、その方針について利用者や家族に説明を行い、意向の把握や方針の共有に努めることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・避難訓練と消火器を使つての消防訓練等を実施している。連絡網も整備され、実施後の反省点を職員に周知している。今後抜き打ちの避難訓練も計画をしていく。 ・地域の消防団にグループホームの説明をして、災害時の避難などに協力をお願いしています。	毎晩、夜勤職員が施設確認の際に、避難経路チェック表に基づいて避難路の確認を行っているが、職員の異動があった5月以降、避難訓練は一度も行われていない。管理者としては避難訓練を月に1回は事業所独自で行いたい意向であるが、実現に至っていない。	新任職員が加わっているため、役割分担の再確認や機器の操作方法などを含めた避難訓練を実施することが望まれる。さらに、併設の特別養護老人ホーム職員や地域の消防団などにも協力を求め、連携を図っていくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・職員は利用者のプライバシー確保やプライドを損ねないことの必要性を認識をしている。 ・記録の取り扱い、個人情報も事務所に保管するなど最新の注意を払っている。	家族が来訪している際には、他の利用者に関する話を職員同士で話さないよう注意している。利用者個人に関わることは自室で話すように努め、利用者の個人情報は外から見えない棚に保管され、施錠もされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者の希望の表出や自己決定の支援についてはは、不十分です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ホームないで大まかな一日の流れはあるが、利用者の状況やペースに合わせて、臨機応変に対応し、利用者本位の暮らしを優先している。 ・ゆったりとした時間を過ごしていただきながら出来るだけ個性のある支援がおこなわれている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援をしています。理美容は、施設で依頼する業者にしていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者の意見を献立に取り入れれたり、職員も利用者と同じ食事を取って、楽しく食事が取れる雰囲気作りを心がけている。 ・調理の下ごしらえや食後の片付けなど一緒にやっている。	併設施設のものでなく、食材・献立・調理すべて事業所独自で行っているため、利用者の希望に即応できている。日常の調理の下ごしらえや配膳のほか、野菜作りや梅干作りなど利用者の能力や生活習慣に配慮した支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人一人の食事形態や好みを把握し、食べ易く、好みに合わせた食事の提供がされている。 ・食事量や水分摂取量はチェック表に記録されて、職員が情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人口腔状態や力に応じた支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄のパターンを把握すると共に、一人一人の状態に応じて、おむつの使用を減らしてトイレ誘導などをして、気持ちよく排泄が出来るように支援しています。	利用者個々の排泄パターンの把握や行動の様子を観察することでトイレに誘導し、おむつを使用しない排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応の為の飲食物の工夫や身体を動かすレクレーションを取り入れ取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・入浴の曜日は決まっていますが、利用者の希望(一番風呂・ゆっくり・シャワー浴等)を聴いて支援しています。また、利用者の状況に合わせて、随時対応できるようにしています。	これまでの生活習慣に配慮して、概ね午前10時と午後2時を目安に入浴しているが、きちんと決まっているわけではなく利用者の希望に応じて対応している。また、排泄などで汚れた時は随時入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・安眠や休息は、一人一人の生活習慣やそのときの状況に応じて取れるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬については、使用している目的、副作用、用法、用量などを理解しており、服薬の支援と病状の変化の確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・今までの生活歴などや好みのものを生かし、出来ることはしていただき、役割意識や楽しみとなるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・御家族の方と相談をして、希望に沿って戸外に出かけられるようにしています。 ・月に1回から2回ドライブ、外食、ご家族と一緒にイチゴ狩り、ぶどう狩りなどを実施して、大変喜んでいただいております。 ・気分転換や戸外の空気に触れるように日常的な散歩の支援をしています。	散歩など利用者から外出の希望や意思を表すことはあまりなく、職員が誘って意欲を引き出すことが多い。利用者からの要望ではないが、管理者としては、外出のきっかけづくりや地域住民と交流できるような、法人敷地内に売店や喫茶店の設置を模索しているところである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人がお金を使うことの大切さを理解している場合は、外出時やお買い物等の外出時において本人の希望や力に応じて、お金を所持し又使えるようにしていますが、現実には疾患の進行に比例して困難になっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人の希望に応じて、電話や手紙のやり取りが出来るように支援をしています。ご家族お友達に年賀状や暑中見舞いなどの支援をしています。がだんだん書けなくなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・明るく開放的でゆったりとくつろげる共用の空間は、節句には雛飾りやこいのぼりを飾ったり、四季折々の飾りつけをするなど、生活感や季節感を取り入れて、居心地よくすごしていただくとともに、季節感を味わうことができるようになっています。 ・餅つき・おはぎ作り・桜餅・柏もち・流し・そうめん・十五夜の団子作り・なべ料理など、季節感を意識して取り入れる工夫をしている。	居室から直接出られるテラスは、外周で続いていて、そのまま庭にも出ることができ、季節を感じ楽しむ作りになっている。屋内には畳敷きのこたつのスペースがあり、壁面には神棚に正月飾りも施され、生活感のある工夫がされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共用空間には、それぞれ好みの空間を味わい楽しんでいただくように、畳・ソファ・長いすなどを配置するなど過ごし易い工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室には、入居時に本人やご家族の希望を受け入れ、なるべく使い慣れた馴染みのものや好みの物を配置して、本人が違和感無く、過ごし易い生活ができるようにしています。	なじみの家具など、本人が使い慣れたものが置かれている。衣類などは一括して事業所の納戸に収納し、季節ごとに必要なものを居室に置くように、職員が入替えを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	・建物内部は、バリアフリーは勿論、手すりを多く付けたり、一寸腰を掛けるソファを配置するなど、一人一人の身体機能を生かして、安全かつ出来るだけ自立した生活を送れるように工夫しています。		